



井原新会長(左)から吉田前会長(右)へ花束贈呈
西南ゆりの会会長 井原 紗江
(法73期)

女子同窓会員の皆様には、
ご健勝でご活躍のことと存
じます。この度、本年六月か
ら西南学院大学女子同窓会
(西南ゆりの会)会長をつと
めさせていただきます井原
吉田前会長同様よろしく
お願い致します。

私たちの母校西南学院は、
一九一六年に男子中学校として設置され、一九四九年
には西南学院大学がスタートし、今年は創立九十周
年を迎えてます。設立当初は教職員九人、生徒一〇四
人の男子中学校でしたが、九十年間で西南学院の卒
業生は大学が七万八千人、全体で十二万人を超える

女子同窓会員の皆様には、
ご健勝でご活躍のことと存
じます。この度、本年六月か
ら西南学院大学女子同窓会
(西南ゆりの会)会長をつと
めさせていただきます井原
吉田前会長同様よろしく
お願い致します。

少子高齢化、格差の拡大、子どもを狙った犯罪など
現代社会は実に多くの問題を抱えています。こうした
課題に向き合い、西南学院で共に学んだ私たちが、様々
な立場や視野でエンパワーメントし、西南スピリット
を胸に次世代へ繋ぎ、共に未来を輝かせましょ。

西南ゆりの会は、大学関係者の方々、同窓会役員の
方々、いつも一緒に活動をしていただいた諸兄姉の皆
様の暖かいご支援のお陰で、昨年女子同窓会創設二十
周年を迎え、今年新たな一步を踏み出すことになります
ので、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

私もあなたも新たなる一步で! ともに輝く時代を!



14
号

西南学院大学女子同窓会
(西南ゆりの会) 機関誌
2006年12月1日発行
発行人 井原紗江
福岡市早良区西新6-2-92
西南学院大学同窓会内

そうです。

こうした中で、初めての女子学生は一九三四年高等学部神学科の選科生として卒業生名簿に登場し、卒業後は長崎の五島富江パブテスト教会で奉職されています。一九九五年には入学した学生の男女比が逆転、現在では女子学生は全学生数の六割を占めるまでになっています。学院九十年の歩みと共に、

女性たちは家庭生活を支えながら、地域社会や職場で一步ずつ着実な活動を続け、

確かな実績を積み、力を發揮してきています。ジャーナリスト、公務員、弁護士、芸術家等、多様な分野で活躍し、その舞台は福岡から世界へと広がり、益々女性の多様な能力の発揮が求められています。男性であっても、女性であっても、持つて生まれた才能を現実に發揮して、自分の力と責任で生きしていくのが、最も張り合ひのある人生と言えると思います。

男女が共に、家庭生活で、職場で、地域社会で個性と能力を發揮し、共に責任を分かち合う男女共同参画社会はより理想的な男女の在り方を示す社会の姿ではないでしょうか。

西南ゆりの会は、大学関係者の方々、同窓会役員の方々、いつも一緒に活動をしていただいた諸兄姉の皆様の暖かいご支援のお陰で、昨年女子同窓会創設二十周年を迎え、今年新たな一步を踏み出すことになりますので、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

予告

◆西南ゆりの会 春のつどい
「宵 雛」

日 時：〇七年三月二日(金)十八時半
場 所：西鉄グランドホテル
十四階コンサバトリーム
※詳細は年明けに西南学院大学ホームページで
ご案内申し上げます。



「博物館前庭 花壇」

西南ゆりの会は創立20周年を記念して、大学博物館前庭にゆりの球根二六〇個を植え、花壇を大学に寄贈しました。(6ページに記事)

第三〇回記念ミニサロン——寺園喜基西南学院院長の講演とミニコンサート——

大学博物館(ドージャー記念館)にて

「建学の精神と平和への思い」



寺園喜基西南学院院長

ではキリスト教主義は主張できませんでした。

戦時中は対戦国であつたにも拘わらず、戦後、本学の復興の為に、当時三億円という巨額の寄付金と宣教師の派遣にご尽力をいたいた米国南部バプテストの方々の熱意に思いを馳せる時、キリスト教精神はこんなにも広く私たちを導きたもうと改めて感じ入ったのです。こうして西南スピリットが培われ、今に至っているのです。

二〇〇六年九月二日(土)に寺園西南学院院長の講演が同年五月に開館した大學博物館二階講堂において開催されました。途中、本学助教授須藤ご夫妻と共に結成されたコンソート・ステラのリコーダーの澄んだ演奏が講堂に鳴り響きました。寺園院長のご講話は次の通りです。



講演風景

大学博物館(ドージャー記念館)



2006.9.2
コンソート・ステラ演奏

最後に寺園院長から提案がありました。昨年L.K.シャイト先生を後に宣教師の先生方は皆祖国へ引き上げられました。西南

皆さんに親しまれている赤レンガ館が、二〇〇六年五月に大学博物館(ドージャー記念館)として生まれ変わりました。この建物は、明治末期から昭和初期にかけて、数多くの西洋建築の設計を手がけたウイリアム・メレル・ヴォーリズ(一八八〇~一九六四年)によつて、三階建てのレンガ造建築として設計されました。

西南学院中等部本館として一九二一年に完成し、二〇〇三年三月までは西南学院中学校・高等学校の生徒たちが集う講堂でした。

その簡素ながらも温かみのある端正な姿から「赤煉瓦講堂」の名で親しまれてきた本館は、現在福岡市の有形文化財に指定され、建築物としての価値を受けました。戦時の日本で被害を受けてきました。

私たちは平和を前提として暮らしていますが、ひとたび戦争となればその存続は危うくなります。第二次世界大戦中、西南は指導者や学生もファシズムの中で被害を受けてきました。戦時の日本

評価されています。

本博物館では、ユダヤ教、キリスト教関係の資料や本学院の創立者であるC.K.ドージャーにまつわる品々を展示しており、彼を記念してドージャー記念館とも呼ばれています。



博物館案内パンフレット

※コンソート・ステラ
一九九八年、寺園院長は本学助教授須藤伊知郎ご夫妻とリコーグループ「コンソート・ステラ」を結成され、同年神学部のクリスマスコンサートでデビューされました。

の宣教師の先生方を記念して博物館の前に記念碑を作りませんかと。是非私たちもご協力できたらと考えております。

男と女が、共に輝く

弁護士 波多江愛子さんに聞く



弁護士 波多江愛子さん

本学院初の女性弁護士となられた法学部93期の波多江愛子さんに、最難関の司法試験にチャレンジされた理由、そして現在の生き方について、お話を

お聞きしました。

波多江さんはどのような学生時代を過ごされたのですか？

波多江さんはどのようないつ頃から弁護士に、またなぜ弁護士になろうと思ったのですか？

最初から女性だけの自立して働いていきたいと考えていました。就職を考えるようになって出来れば自分のペースで働ける仕事に、と思うようになりました。結婚や出産で元の仕事を戻れなくなるのは嫌だし、必要な時に休めないので困ると思ったからです。それには資格を取るしかないと考えました。法学部だったので司法試験を受けました。大

学校関係行事を担当しています。この辺りは夫の苦手分野ですか（笑）。

弁護士が正しくいよいよと思いました。法学部だつたので司法試験を受けました。大学三年の頃です。もちろん

義感を満たす事の出来る職種だということも大きな理由でした。

司法試験を目指す上で大変なことは何でしたか？

やはり勉強量が多いことでしようか。精神的にかなり辛かったのは、社会と全く関わりのない生活をしている事と、友人が次々と先に受かっていった事です。

ただ、この経験は私に自信と精神力を与えてくれたように思います。

波多江さんは三人のお子さんのお母さんでもあるのですが、弁護士の仕事とどのように両立されているのですか？

家事・育児の大半は夫が担当しています。夫は第二子が生まれる時に会社を辞め、育児中心の生活に転換してくれました。今では、昼間私の仕事を手伝い、夕方保育園に子どもを迎えに行って、夕食・入浴・就寝までほとんど一人でこなしています。

司法試験改革第一期生として、本学院からも本年度二名の合格者が輩出されました。試験を目指す皆さんに伝えたいことは？

私は今のところ西南では唯一の女性合格者ですが、決して優秀な生徒ではありませんでした。無謀ともいえる挑戦で合格した訳ですが、それは誰にでも可能な事なのでしょうと思います。自分の可能性に自ら限りを作らず、是非挑戦してみてください。

夫の両親や周囲の理解を得ることが出来たか心配もありましたが、幸い暖かく受け入れてもらっているようです。

私は今のところ、朝ご飯とトイレ掃除です。学校関係行事を担当しています。この辺りは夫の苦手分野ですか（笑）。

弁護士としてどのような仕事をされているのですか？

借金問題、離婚、相続等が多いですね。モットーは人の話を良く聞き、相手の身になつて考えることでしようか。大学時代の出会いや経験が今役に立つていると思います。

薬害肝炎訴訟も頑張っています。これは、肝炎ウイルスが入つていてことが分かりながら、国や製薬会社は薬を承認・販売しました。産婦や未熟児に多く使われた薬で、知らない間にこの薬を使われた被害者は達は、今、体調悪化のみならず、経済的負担や将来の不安をも背負わされています。

それ以外にも全国には三百万人といわれる肝炎患者さんがいて同じ状況で苦しんでいます。この方も輸血等、医療行為で感染した方がほとんどです。

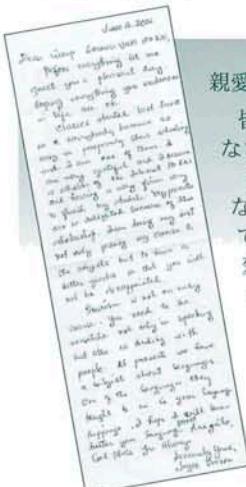
国の医療行政の怠慢で肝炎になってしまった人達。立場の弱い人が苦しまなくていい世の中になつてほしいと思い活動しています。

サラマツボ奨学生からの御礼状

ゆりの会では

「サラマツボの会」を通じて1名の女子学生の入学から卒業までを支援していますが、新しい奨学生からのお礼状が届きました。

2006年6月16日
「サラマツボの会」を通じて1名の女子学生の入学から卒業までを支援していますが、新しい奨学生からのお礼状が届きました。



親愛なる西南ゆりの会の皆様

皆様このよき日にいかがお過ごしでしょうか。皆様が日々の生活においてご尽力なさっていることがすべて順調にいっていることを願います。

6月13日に授業が始まり、皆落ち着いて学校の準備にいそしんでいます。私もそんな一人です。本当に感謝しております。私はサラマツボ会の奨学生になれたおかげで学業を修める確固たる道を見出しが出来ました。両親は奨学生のことを大変喜んでいます。私はコースや科目にパスするだけでなく、皆様をがっかりさせないようにできるだけよい成績をとるよう最善を尽くしています。

観光は易しいコースではありません。人々と話す能力だけでなく人々に対する対応にも長けていなければなりません。今、言葉に関する科目を履修中です。教わった言語の一つは皆様の言葉である日本語でした。皆様の言葉をより深く学べればと望んでいます。どうもありがとうございます。いつも神の祝福がありますように。

草々
ジョイス・ウェンソン

学部は今 → 国際文化 学部誕生 → 森泰男学部長

わが国初めての国際文化学科

国際文化学科は一九七六(昭和五十一)年に文学部の一学科として誕生しました。従来の文学部は専門別に、哲学科、文学科、史学科など縦割りになっていました。それに対して、私たちの学科は全体として文化研究を目指すことにし、地域別にコースを編成することにしました。すなわち、日本・中国・アメリカ・ヨーロッパの四つの地域を設定しました。まず或る特定の地域を文学、歴史、哲学、思想のどれか一つにまず集中することによって、地域研究を始めます。そして、地域を学際的・相互的に研究すると共に、地域を越えて世界全体を文学的、歴史的、思想的、比較文化論的に広く(今流行の用語を使えば、グローバル)に研究することに決めました。このようにして、わが国で最初の国際文化学科が創立されたのです。



森泰男学部長

解を得て、文部科学省に改組の届出を行ひ、入学定員二

国際文化学部に昇格

国際文化学部は内部に様々な問題を抱え込んでいましたので、教育福祉部が人間科学部になるのを契機にして、私たちも文学部から独立し、国際文化学部になります。幸いに大学当局のご理解を得て、文部科学省に改組の届出を行ひ、入学定員二



30周年記念祝賀会風景

十名増の認可申請をしたところ、幸いに

全て認められました。かくして、今年の四月に国際文化学部国際文化学科がめでたく誕生しました。専任教員は二十三名です。それに二名の特別教員がいます。さ

らに、二〇〇七年度には、一名の増員がみとめられ、現在採用人事が進行中です。

今年は国際文化学科創立30年と国際文化学部開設とが重なりましたので、記念行事をいろいろと計画し実行しました。

①「国際文化学科創立30周年・国際文化学部開設」記念のパンフレットを発行しました。斬新なパンフレットとして好評です。

②「国際文化論集」第二卷第一号を記念号として発行しました。

③去る5月20日に、西南クロスプラザを会場にして記念式典とパーティーを行いました。定年退職された先生方が何人も元気なお顔を見せてくださいまし

たし、卒業生もたくさん出席してくれました。さらに、吉田扶久子ゆりの会会長も出席してくださいり、共に祝つてくださいました。みんなで30年分の卒業アルバムを見たり、掲示板に貼り付けられているスナップ写真を眺めたりして、昔を思い出して楽しみました。

④さらには、国際文化部ゼミ連合との共催でシンポジウムを開催しました。

私は学部長として朝日新聞のインタビューを受けました。

カリキュラム改正 より充実した教育を目指して

国際文化学部は二〇〇七年度にカリキュラムの大幅な改正を行おうとしています。コースの再編成(日本文化、中国・アジア文化、アメリカ・大西洋文化、ヨーロッパ・地中海文化、比較文化「新設」、表象文化「新設」の六コース)をはじめ、魅力ある科目的新增設など充実したカリキュラムを作り上げます。

最後になりましたが、学部学生の男女比率について述べておきます。文学部と同じように女子学生が多く、男性が約17パーセントで、女性が約83パーセントです。今後は男性の比率を高めつつ、優秀な女子学生を多く迎え入れたいと秘策を練っています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

一期生の声



本学科開設当時は全国的にも国際文化学科という学科が注目され

始めた中での「魅」がありました。一期生である私たちは四年間学ぶにあたり、トライアル的なケースで実践しながら探っている状況でした。生きている人間、動きのある「今」を感じる科目的数々は当時斬新で興味深く、あれこれ履修し、一つ一つをしつかり理解するには四年間ではとても足りない程に盛りだくさんの時間割になってしまいました。



30周年記念パンフレット

懸け橋

西南学院本部・大学企画広報課長

古賀敦子さん(外英80期)



執務中の古賀敦子さん

今春、西南学院大学職員の中で女性で初めて課長になられた企画広報課長の古賀敦子さんにお話を伺いました。

—西南では女性で初めての課長にご就任ですね。

おめでとうございます。

有難うございます。皆さんに応援していただいて大変感謝しています。女性課長という事は自分では特に意識していないが、好きな仕事を通じて自分を成長させてもらつて、気がついたら「え、課長ですか? 私でいいんでしようか?」つ

—課長になられて今までと変わった点はどんなところでしょうか?

名刺を出した時の反応が違います(笑)。否応なしに自分の責任を自覚させられます。

—企画広報課はどんな仕事をなさる部署ですか?

学院全体や大学の将来構想案を練る

といった大きな事から、日々の業務の見直しに至るまで様々な企画を提案します。

また、一方では新聞や雑誌に如何に効果的に広告を打つかを考えたり、時を選ばず飛びこんでくる取材依頼の段取りをつけたり等々、本当に一日があつという間です(笑)。大学広報誌Spiritを年四回発行し、「大学の今」を発信するのも大

きな仕事です。

就職した頃は同じ場所に通勤しているが、いつた大きな事から、日々の業務の見直しに至るまで様々な企画を提案します。また、一方では新聞や雑誌に如何に効果的に広告を打つかを考えたり、時を選ばず飛びこんでくる取材依頼の段取りをつけたり等々、本当に一日があつという間です(笑)。大学広報誌Spiritを年四回発行し、「大学の今」を発信するのも大

きな仕事です。

—卒業後も同じ西南キャンパスに通勤なさって気持ちの上で変わったもの、変わらないものがありましたか?

—卒業後も同じ西南キャンパスに

通勤なさって気持ちの上で変わったもの、変わらないものが

ありましたか?

ても「学生気分」の今まで仕事をしないように気をつけていました。職員になつてみると学生の頃にはよく分らなかつた色んな仕事があるなあと驚きましたね。当時は、年齢的にも学生と近いので「学生の気持ち」が理解しやすい等の利点はありました。職員生活25年を経た今でも「学生の立場や目線」は仕事を進め

—最後に、後輩学生へのメッセージをお願いします。

異質性や多様性を受容できる幅の広さ、強さを培つて欲しい。「自分の思う通りにいかない事」や「予測できない事」にぶつかつた時、その強さや広さが役に立つと思うから。

「見えないものを大事に、さりげなく心遣いしていきたい」との言葉が印象的でした。学生と大学、地域社会と大学を結ぶ懸け橋として、これから古賀さんのご活躍が益々期待されているようです。

(国際85期 山内律子)



SEINAN Spirit

る上で一番大事にしているポイントです。加えて最近は保護者の気持ちも理解できる年齢になつてきました(笑)。

—ご家庭で大事になさっている事はどんな事ですか?

家庭では11月に13歳になつたばかりの息子の反抗期と向き合っています。どんどん成長していく子供を見ると寂しい気もありますが、やはり子供は親にとつてビタミン剤ですね。私が仕事に全力投球できるのは何と言つても家族の理解と協力があるからです。

—仕事と家庭のバランスではどんな事に気をつけていらっしゃいますか?

仕事でも家庭でも皆がハッピーでいるにはどうしたらよいか、が私の判断基準です。自分の心がハッピーな状態でないと、人をハッピーにする仕事は出来ないと思っています。

—最後に、後輩学生への

メッセージをお願いします。

第十八回「秋のつどい」

キャンパスにゆりを植えよう！

05年11月12日、西南クロスプラザにて

「第18回秋のつどい キャンパスにゆりを植えよう」が開催され、同窓生約七十名が植樹・卓話・ティーパーティーと盛りだくさんの半日を過ごしました。

20周年記念にゆりを植樹

前日までの雨もあがった秋晴れの空の下、植樹が行われました。今年は「西南ゆりの会」発足20周年にあたり、その記念事業として大学博物館（ドージャー記念館）前庭に「ゆりの会」の名に因んでゆりの球根五種類（カサブランカ・スターイガ・ルレーブ・すかしゆり・マドンナリリー）計二六〇個を植え、花壇を大学に寄贈しました。ゆりは初夏から夏にかけて順次美しく咲き続け、今年五月の大学博物館のオープンにも文字通り花を添える事ができました。

植樹後は会場をクロスプラザホールに変えて、英國王立園芸協会会員の石井康子さん（法法80期）の卓話がありました。石井さんは「花のあるライフスタイル」と題してご自宅の四季折々



講演風景

のガーデニング風景をたくさんのスライドで紹介され、会場からは「マンションのベランダでも育てやすいお花は?」「英國王立園芸協会の資格の取り方は?」等、色々な質問も出されました。卓話に統一では、同窓生それ

ぞれが丸テーブルで賑やかにティータイムのひとときを楽しみました。

「聖書植物園」をご存知ですか？

この「秋のつどい」に先立ち、9月10日にはゆりの会役員を中心ミニサロン「聖書植物園に親しむ」を開催し、神学部教授の小林洋一先生から聖書にまつわる植物のお話を伺った後、「聖書植物園ツアーア」を行いました。

この「聖書植物園」は一九九九年に大学開学50周年の記念事業として同窓会からの寄付金を基に、当初、聖書に出でくる約百種類の中の十種類から出発して、現在では植物の種類も約七十種類にまで増えており、この種の植物園は国内唯一の大変貴重なもの

講師紹介



石井康子さん(法法80期)

英國王立園芸協会会員、ハンギングバスケットマスター、コンテナガーデニングマスター、(財)日本花の会・全国花のまちづくりアドバイザー、福岡市緑のコーディネーター、福岡「花の森」ガーデニングクラブ代表世話人。今年5月からNHK「福岡いちばん星」のガーデニングコーナーにも出演中。

ガーデニングを始めたのは18年前。「もっと知りたくて」今でも一日の終わりには植物に関する本を読み、その興味は植物に留まらず文化や風土へと次々と拡がっているそうです。

(国際85期 山内律子)



聖書植物園パンフレット

第8回 新春のつどい

It's a small world after all.



森本哲郎氏

きました。

森本氏は、新春にふさわしい「高砂」のお仕舞いを観客の間近で舞いながら、能鑑賞のポイントや一つひとつの動作の解説などを初心者にも分かりやすく話してくださいました。僅か20分間のミニ講演でしたが、力強さを内に秘めた静かで激しい舞いは、どこかスポーツに通じる迫力が感じられ、会場からは盛んな拍手が贈られていました。この日から、福岡の能舞台は、確実に新しいファンを掴んだようです。

さて、日本の文化に触れた後は、韓国の文化を考えるという心憎い組み合わせが配されており、参加者はユーモアとウィットに溢れる講演を聞くことができました。折しも日韓国交成立から40年を経た今、日韓交流は新しい段階に入った感があります。また、時代は韓流ブーム。テレビドラマのヒットを契機に、民間外交による交流が政府間では成し得なかった親密度を作り上げています。しかし、韓国が、私たちがまだまだ知らないことも多い隣国であるのも事実です。今回、講師に迎えた朴氏は、



朴源弘先生

2006年新春のつどいが2月4日、西南クロスプラザのレセプションホールで開催され、ご来賓を含め約100名が参加しました。第8回を数える今回は、第1部に能楽師森本哲郎氏を迎え、「能のおはなしと実演」と題した講演と観世流のお仕舞いを楽しみ、第2部では、前大韓民国国会議員として活躍後、現在は西南学院大学留学生別科で日韓比較文化論を教授する朴源弘氏による「韓日文化を軸に明日を展望する」の講演を聞



講演風景

滞米生活23年の親米家であり、韓日親善協会中央会副会長として韓日の親善に尽力される無類の親日家でもあります。開口一番「私は朝丘弘(あさおかひろし)という名前でした。日本による創氏改名

の中、父が自分たちの出身地に因んで決めた名前です」と、氏の複雑な心情を披露されました。日本人と韓国人は違う民族だが、同じウラルアルタイ言語、蒙古斑、食文化、祭り文化、教育ママ(笑)など共通点も沢山あり、お互いを理解することから始めましょうと説かれました。一方で、旗幟(きし)鮮明でオープンな韓国文化は、中間色と曖昧な日本文化とは好対照をなしています。また、韓国人は東洋のイタリア人とも呼ばれ、半島民として独立性を何千年も守ってきた自信もある反面、劣等感も強く、これらの感情が民族主義や国粹主義となって表れることがあると分析されました。「一衣帶水の韓日両国は、永遠に隣国として生きていかなければならない運命。国家という概念が今後ますます希薄になっていく中、東北アジアの片隅で日本と韓国が争ってはいけない。むしろ、模範的な隣国関係を世界に示すべきです。

It's a small world after all.

韓国の良き理解者となる日本の女性の役割が重要になります。」と朴氏は結ばれました。

日本の伝統文化、能狂言に親しみ、隣国の文化と両国の友好に思いを馳せる。2006年の新春のつどいは、ゆりの会20周年の成長を象徴するにふさわしい充実した内容の会でした。

(外英80期 古賀敦子)

ひろば
'06年新春のつどいお申し込みから

◆古賀 照子(商英61期)

会報を楽しく読みました。「白ゆり」の中では the oldest かもしれません。気が短くなつて参りましたので、同窓の方々とも仲良くさせていただきたいと思います。

◆萩尾 憲子(文英69期)

高取公民館に勤務して13年、西南スピリッツを心に刻んで日々社会教育に取り組んでいます。

◆野副 信子(英専75期 高木)

2年前から全国的規模のガイド通訳ボランティア団体福岡支部に属し、福岡国際空港到着ロビーとアクロス福岡情報広場で夫々月一回ずつボランティア通訳をしています。06年7月には世界政治学会の各國参加者を長崎に観光バスで案内し、10月には国際高血圧学会での総合案内をしました。外国人からの訪問者も益々増え、国際都市福岡を実感しています。

◆上井 尚子(経営77期)

西南ブリッケールの一員として活動しています。

◆高原千鶴江(商経84期・田代)

「白ゆり」を送つて頂いて、学生時代の事があらためて思い出され、とてもなつかしく胸がキュンとする思いがしました。

◆淡田 奈津子(文英87期・小林)

清水建設に一般事務職で入社して19年目。土木の世界に魅了され、独学で一級土木施工管理技師と、コンクリート技師の資格を取得。会社の技術者名簿の出身大学欄には「○×大学工学部」「○×工業大学」に混じつて「西南学院大学文学部英文学科」が異彩を放っています。現在、土木見積を担当、まだまだ勉強すべきことが山積です。

◆徳王 雅美(文英92期)

西南学院大卒業後、武蔵野音大声楽科に入学し卒業しました。

◆鬼木 悅子(文英92期・前田)

卒業後、銀行に勤め職場結婚。3年前、主人が県会議員となりその事務所を手伝っています。環境の変化に戸惑う毎日です。の方々とお会いできることを楽しみにいたしております。

◆井上 容美(商英93期)

福岡県内の私学全体に関わる仕事に携わっております。多くの方々とお会いできることを楽しみにいたしております。

2005年度 西南ゆりの会収支報告書

1. 収入の部 (2005年4月1日~2006年3月31日)

項目	収入額	備考
縁越金	24,277	前年度縁越し
同窓会補助金	400,000	大学同窓会よりの活動補助金
講演会等費	386,000	秋のつどい・新春のつどいの会費、ご祝儀
ミニサロン費	34,650	ミニサロン会費
収益金取りくずし	350,000	03年11月ゆりの会主催 コンサート収益金より
雑収入	2,851	総会チケット販売還元金等
収入の部合計	1,197,778	

1. 支出の部

項目	支出額	備考
講演会費等	192,154	20周年記念植樹費用一部
	391,230	秋のつどい、新春のつどい
ミニサロン費	53,500	食事代、講師謝礼等
慶弔済外費	38,840	他大学イベント出席費用等
通信費	15,080	白ゆり20周年記念号は学院会報に同封
印刷費	371,435	会誌「白ゆり」作成費 白ゆり封入手数料
会議費	27,555	役員会・委員会会場費等
寄付金	50,000	サラマッポの会への寄付
雑費	6,161	振込手数料、事務用品等
縁越金	51,823	平成18年度会計へ繰越
支出の部合計	1,197,778	

2005年度 西南ゆりの会事業報告

(2005年4月1日~2006年3月31日)

1. 西南ゆりの会総会

日時 2005年6月10日(金) 17:30~18:00
会場 ソラリア西鉄ホテル

2. 西南学院大学同窓会総会

日時 2005年6月10日(金) 18:00~
会場 ソラリア西鉄ホテル

3. 第29回 ミニサロン

日時 2005年9月10日(土) 15:00~17:00
会場 西南学院クロスプラザゲストルーム&大学構内「聖書植物園」
講師 西南学院大学神学部教授 小林洋一氏

4. ゆりの会20周年を記念して

韓国梨花女子大同窓会との交流を試みる
2005年10月7日 梨花女子大留学生2名をお招きし役員と茶話会を催した
2006年4月21日にソウルの梨花女子大を訪問することを決定した

5. 第18回秋のつどい

日時 2005年11月12日(土) 14:00~16:00
場所 西南学院大学博物館(ドージー記念館)前庭花壇にゆりを植える
卓話 「花のあるライフスタイル」
講師 石井康子さん(法80期卒)
会場 西南学院大学クロスプラザセレクションホール

6. 西南ゆりの会広報誌「白ゆり」第13号

20周年記念号 2005年12月1日発行 女子卒業生全員に発送する

7. 第8回新春のつどい

日時 2006年2月4日(土) 14:00~16:30
会場 西南学院大学クロスプラザセレクションホール
お仕舞い 「能のおはなしと実演」観世流森本能舞台主宰 森本哲郎氏
講演 「日韓文化を軸に明日を展望する」前大韓民國國會議員 朴源弘氏

8. サラマッポの会援助(フィリピンの女子学生に奨学金として寄付)

9. その他聖書植物園ボランティアに参加する(2006年1月より実施)

10. 定例役員会 毎月一回 奇数月 第三水曜日 12:00~
偶数月 第三水曜日 18:30~

カンパのお礼とお願い

昨年度も多くの方々からカンパを頂戴し本当に有難うございました。

当会はいわゆる固定会費を徴集せず、大学同窓会からの補助金(年額40万円)で運営されています。経常の活動費、秋のつどい等の行事、機関紙「白ゆり」の制作費等々、補助金だけでは到底賄いきれない現状です。殊に、昨年から「白ゆり」発行部数を二万部に引き上げ、大学同窓会のご協力の下、女子同窓生全員に発送できるようになった事は望外の喜びですが、これも偏に皆様からの温かいご厚志のお蔭と改めて感謝し、心から御礼申し上げます。

何卒事情ご賢察の上、お志のある方は一口千円(何口でも)お振込みいただきますよう、本年も切にお願いする次第です。

尚、昨年度カンパいただいた方のお名前を感謝と共に記載させていただきました。万一、手違いの為にお名前が漏れている方がいらっしゃいましたら、ご面倒でもご一報下さいますようお願い申し上げます。

郵便振替番号 01710-9-85645 西南ゆりの会

安西忍、石神美代子、伊藤萬里子、井上暁子、井原絹江、岩尾豊子、内海昌子、岡部葉子、小河恭子、嘉村理実、河内光子、菊畠温子、北征子、日下部千春、草場久子、楠原町、黒岩絹代、河野ユリ子、古賀敦子、古賀和子、小島須磨子、佐藤このも、渡田壽子、陣内祥子、末松和子、鈴木牧子、高山和代、塚田恵美子、寺園峯子、土井光子、中野和子、永光加代子、野田光子、朴源弘、藤沢侑子、松浦ゆかり、三上正子、水城啓子、三好由布子、米多比喜代子、森藤峰子、矢野多美恵、山内純子、山内律子、山崎美知子、山崎芳子、山田啓子、山本壽子、吉武美智子、吉田扶久子
(総額十万五千円)

後編記集

私事ですが、西南大四年生の我娘が、シアトルでの一年間の語学留学を終えて無事戻ってきました。アメリカがまるで故郷のような愛着をもった様子を見ると、強くたくましい女性・国際人を大学が生み出している事をまのあたりに思っています。グローバルとか、国際的とか、言葉にしなくて、自然に世界に溶け込んでいく多くの後輩達が、ほんとうの意味での、男女共同参画を実現していくてくれる日も遠くはないと思います。

今年職場にできた仕事と家庭の両立支援委員会の委員になりました。職場でも家でもバタバタしている私に「あなたなら『ゆりの会』の行事に参加されませんか? 有意義ですよ。
(商工87期 小島須磨子)

(外英76期 納富昌子)

(国際90期 塚田恵美子)